

質疑応答（一部抜粋）

Q：照明デザインの変遷

公共空間の照明は、その時代によって役割や評価基準が変遷していると思います。
過去から現在にかけての違いについて、長町様の視点からご意見をお聞かせください。



公共空間を使う方の目線に立った照明デザインの重要性が高まったと感じます。
現在は空間の安全性確保や、空間への滞留を促す照明デザインが
求められています。

Q：屋外照明が周辺環境にもたらす影響

屋外における照明は、その規模等によって周辺環境に様々な影響を及ぼすことがあります。
お二方のご意見をお聞かせください。



おっしゃる通り、特に屋外の照明は場合によって周辺環境に影響を与えることがあります。
屋外照明に関するガイドラインの策定等により、適切なルールを定めることは重要です。



人間にとってだけでなく、生物等を含めた広い視野で環境と調和する照明を
考えていくのはとても大切なことです。

第5期市民検討会のご案内

今年度からは「第5期市民検討会」として【夜間景観】を新たなテーマに、
調布市の景観の魅力やあり方を、市民の皆さんと一緒に考えていきます。
現在、第5期市民検討会の参加者を募集しています。
詳細は調布市ホームページ等をご覧ください。



第3回

10月27日(火) 19:00～

調布の夜間景観を実際に歩いて、
特徴を明らかにしよう！

第4回

11月頃開催予定

これまでのフィールドワークを振り返り、
成果をまとめよう！

第5回

来年1月頃開催予定

調布らしい夜間景観の
特徴をまとめよう！

※開催時期や内容は、変更となることがあります。

調布市では景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせしていきます。

発行：調布市都市整備部 まちづくり推進課 開発景観係

Tel：042-481-7442 Fax：042-481-6800 Email：keikaku@city.chofu.lg.jp

ちょうふ景観だより

第71号 | 令和8年
10月1日発行



美しい夜間景観
をまなび
調布らしい夜間景観
をさぐる

「夜間景観」の楽しみ方について、オープン講座形式で皆さんと一緒に学びました

第5期市民検討会のテーマである「夜間景観」に親しむ上で必要な視点やポイント等について、講師に様々な自治体の計画策定等に携わる照明デザイナーの長町 志穂様と、景観アドバイザーの慶應義塾大学 石川 初教授をお招きし、様々な事例を交えながらご紹介いただきました。

後半はお二人のクロストークの他、参加者からの質問にもお答えいただきました。
本号では、レクチャーや質疑応答の一部を紹介します。

講師



株式会社LEM空間工房代表

長町 志穂 様



慶應義塾大学 環境情報学部教授
調布市景観アドバイザー

石川 初 様

開催テーマ

「調布の夜ってどんなまち？魅力を発見しよう！～灯りと景観の楽しみ方～」

開催日時：令和8年7月23日(木) 19:00～

夜間景観をテーマにした経緯

- 近年、夜間におけるあかりを活用した景観が都市の価値を高めることについて、認識が高まっています。
- 一方で、夜間の照明は地域の皆さんの生活と密接に結びつき、生活環境に影響を及ぼす可能性があります。
- これらを踏まえ、「観光地」「商業地」「里山」「良好な住宅地」といった様々な側面を持つ、調布市ならではの夜間照明のあり方を市民の皆さんと一緒に探っていきたいと考えています。

第5期市民検討会は、幅広い市民の皆さんと一緒に
【調布らしい夜間景観】を考えるきっかけを創出することを目的としています。

「夜間景観が表す、人の営み」（石川教授）

【夜間景観の特性】

- 夜間は、人が「どこを重要と見なすか」という意思が光を伴って直接景観に表れる時間帯です。都市機能の要点が浮かび上がり、昼と異なる景観を有します。
- 衛星写真等で広域に見ると、人の活動パターンが特に可視化されます。都心の線路沿い、工業地帯、イカ釣り漁船の集団などが分かります。

【灯りの価値、暗さの価値】

- オフィスビルが構成する夜景は、均質的な光が特徴です。マンションや団地は住まいごとに異なる多様な光が特徴であり、それぞれ異なる印象の夜間景観を作り出します。
- 明るいだけが価値ではなく、暗さにも価値があります。ランタンや線香花火等の小さく私的な灯りを楽しむためには、暗さが必要です。こうした灯りには愛着が湧き、精神的な満足を高めることがあります。

【調布市の夜間景観の特徴】

- 調布駅周辺は、多摩地域の北部でも「ひときわ明るい」エリアです。一方で、国立天文台周辺や深大寺周辺など「ひときわ暗い」エリアがあり、市内で併存しています。
- この明暗の対比は、調布らしい夜間景観を表す視点の1つといえます。



「照明を通じ、まちの魅力を再発見するポイント」（石川教授・長町様 クロストーク）

【街の魅力を発見する上での視点の置き方】



初めて何う街では、第一に行政の方などから話を伺いますが、最終的には市民の皆さんとまち歩きしながら探ることが重要です。皆さんが個々に大切に感じている場所を探り出し、夜間景観として磨き上げることでその地域らしさが生まれます。

照明が景観をつくるのではなく、
既にある景観の可能性を引き出している点が重要です。



「美しい夜間景観を楽しむために必要な視点」（長町様）

【公共空間における照明の役割】

- 街の中で大切な場所であること、生活する人々に大事に扱ってほしい場所であることを示す役割があります。
- 照明は、昼間の環境を再現するためのものではありません。重要なものだけ照らして目立たせるのではなく、視界全体で美しい照明の状態を築くことが重要です。
- 道路や河川、公園等、公共空間には様々な特性がありますが「この空間をどう活用していくのかをみんなで決め、必要な照明を設置する」ことが共通して求められます。自分たちの街で大切にすべき要素が視覚化され、調布らしさにつながっていくでしょう。



【即効性と資産の再評価】

- 照明の特徴として、効果が比較的短期間で可視化されます。実証実験の前後で景観の変化が分かりやすく、人の賑わい等の変化により効果も可視化されます。
- 古くからある橋や建築物、樹木等の既存資産に対し「切らず・壊さず」に価値を還元することが可能です。

【美しい夜間照明を構成するキーワード(一部抜粋)】

美しい夜間照明を考える上で、念頭に置くべき5つのキーワードを教えてくださいました。皆さんも意識して身の回りの夜間照明を見ると、気づくことがあるかもしれません。

色温度

- ・光の色味を表す指標です。
- ・色温度が高いと青白く、低いと赤やオレンジ色に見えます。
- ・美しい夜間景観づくりには、電球色と呼ばれる色温度が最適です。

鉛直面の明るさ感

- ・地面と垂直方向の面、つまり壁面や植栽の明るさを指します。
- ・エネルギーの無駄がなく、必要な明るさを確保することが可能です。

グレア

- ・強い光や反射光が視界に入った際の、不快感を伴うまぶしさを表します。
- ・「色温度」や「鉛直面の明るさ感」、かつ光源が利用者等の視界に入らない工夫が重要です。

環境への配慮

- ・周辺環境への影響の抑制や、エネルギーの削減といった視点に配慮された照明の設置が重要です。

オペレーション

- ・1日のうち特定の時間帯や、季節の特性等に応じた調光等の工夫により、景観の魅力をより高めることが可能です。

【意外な場所の再発見】



今まで見過ごされてきた場所に、文字通り光が当たるきっかけができると良いと思います。例えば中央高速道路の高架下など面白いのではないのでしょうか。

暗い空間の奥に灯りがあると、安心感を覚えて前に進みたくなる心理的効果（サバンナ効果）があります。高架下や暗い路地といった場所にも、ポジティブな空間に変換できるポテンシャルがあります。

